

「プラン2015」 5年目取組状況

全国パック連30周年記念集会



「プラン2015」 飲料用紙パックリサイクル行動計画 ～5年目取組報告～

アクションプランに基づいて、4つの委員会で活動を推進してきました。

1.総務委員会

(1)回収促進に向けて

①紙パックリサイクルの基本調査・回収率の算定
他の古紙類として排出される紙パックを数量把握する為、雑がみの組成調査を町田市で行いました。紙製容器包装リサイクル推進協議会と協働して雑がみに含まれる紙パックの調査を進めました。

②紙パックリサイクル促進地域会議の開催
福岡県北九州市で紙パックリサイクル促進地域会議を開催し、回収率向上における様々な課題に対して議論を行いました。

③ステークホルダーとの意見交換会、情報交換会を一部は全国パック連と連携して開催致しました。

(2)次期行動計画「プラン2020(仮称)」に向けて

4つの専門委員会は「プラン2015」に基づいて、様々な諸活動を展開して参りました。2016年度から2020年度までの5年間の中期計画「プラン2020(仮称)」を策定すべくワーキンググループを立ち上げ、ワーキンググループ内で次期行動計画骨子の策定を行いました。

2.広報委員会

(1)普及啓発事業

①ホームページの拡充
ホームページの内容を充実させることを目的に、原紙メーカーによる森林管理勉強会を2回(2社)開催しました。

②年次報告書2016の企画・編集に取り組みました。

(2)回収促進事業

①全国20事例集(第4集)を発行しました。

全国パック連と協力して行った取材内容を整理し、取材先とも確認を取りながら校正し冊子にしました。

②総務委員会と協力して作成した回収ボックス1/2サイズを多摩市のコンビニエンスストア等20か所に設置いただきました。

③総務委員会と協力して作成したリサイクル啓発用のPOPを、ユニー株式会社とマックスバリュ中部株式会社の店頭掲示にご協力いただきました。

3.イベント委員会

(1)紙パックリサイクルを活用した環境教育と普及啓発

①全国パック連と協働して小学校4校で出前授業、自治体や店舗8か所でリサイクル講習会を開催しました。その結果、通算で出前授業50校(12月実施校は2017年次報告書に掲載)と講習会開催50回に達しました。

②エコライフ・フェア2015、エコプロダクツ2015など地域環境フェアに出展しました。

(2)牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール

第15回目を迎え、長年応募のあった小学校ご担当の先生との意見交換と感謝の機会を企画しました。

4.支部組織委員会

(1)紙パックをめぐる諸活動の担い手の発掘と支援

①紙パック回収率向上に向けて環境イベントなどに各種パネルの貸出や冊子類・再生品のオリジナルトレットペーパーの提供を行い、「リサイクルの環」作りに努めました。

②地域企業やサポーターが参加する地域環境フェアなどへの各種啓発ツールの貸出などで、地域ごとの主体的な取組みの支援を行ないました。

③委員会発行のメールマガジンで特色のある地域の取組みや支援ツールなどを積極的に情報発信しました。

各委員会の活動は、四委員会の正副委員長で構成する企画運営委員会と理事も出席する四半期運営委員会で報告・審議され、必要に応じて活動内容を修正するなど「プラン2015」に基づく活発な活動を展開しています。

全国パック連の創生期から 30年の歩みが関係者から語られた 貴重な記念集会となりました。

【全国パック連 30周年記念集会】10月15日

全国パック連が主催・容環協が協賛する30周年記念集会が、官庁、自治体、福祉事業所、市民団体、業界関連団体、事業者等98名参加のもと、中野サンプラザにおいて開催されました。

平井代表の主催者挨拶では、1984年に「もったいない」という心を子どもたちに伝えたい」ということから始まった牛乳パック回収運動と翌年の全国パック連の発足当時の状況、全国大会、容環協との連携、出前授業やリサイクル講習会など現在までの活動を織り交ぜて活動概要を話されました。

次に来賓挨拶として容環協・岸田会長より、全国パック連との協働、飲料用紙パックリサイクル行動計画「プラン2015」に基づく活動と紙パック回収状況や課題について説明しました。

続いて韓国酪農乳加工技術院・李代表からは、地球環境保護という大きな視点での活動やフォーラムによる日韓の橋渡し、小学校での出前授業で感銘を受け韓国でも活発に行われるようになったことなどに対し賛辞をいただき、今後も日韓交流が継続されることを希望されました。

その後、「30年以上続く活動団体の今・昔と、牛乳パック再利用運動」と題したパネルディスカッションに移り、

まずパネラーの方々の活動が紹介されました。株式会社大地を守る会は、農業や化学肥料を使わない農産物を消費者の玄関先まで宅配する事業の説明、チェルノブイリ原発事故の影響、牛乳パックの回収と環境啓発、海外での活動について説明。株式会社ダイナックス都市環境研究所からは、自治体や関係団体に対してのコンサルティング・調査などの事業、認知されていなかった牛乳パックのリサイクル推進のための官庁への働きかけ、イベントの開催などお話しいただきました。

NPO法人中部リサイクル運動市民の会からは、市民団体170団体510人が参加した草の根サミット、牛乳パックの回収は手段でありその根底にある心の部分が重要な環境教育になっていることをお話しいただき、NPO法人碧いびわ湖からは、原点である琵琶湖の石鯰運動、「子どもと湖が笑ってる未来へ」というビジョンを掲げ、自分達で力を寄せあって、もったいない精神を大事に活動している具体例などを紹介いただきました。

パネルディスカッションとその後の参加者との意見交換では、紙パック回収の実態や今後の課題、行政を含めた関係者の関わり、全国パック連の活動など、普段聞くことのできない貴重なお話を伺い、改めて牛乳パックのリサイクルの深い意義と広い関係者の連携を知ることができました。



主催者挨拶 全国パック連 平井代表



来賓挨拶 韓国酪農乳加工技術院 李代表



紙パックリサイクル促進地域会議

再生紙メーカー意見交換会



各地域での情報交換を通じて、
リサイクルの促進を図る
地域会議を開催。

紙パックリサイクル促進地域会議 in 福岡／北九州市

- ◆開催日 2015年10月27日
- ◆参加者 環境省、自治体、市民団体、乳業メーカー、容器メーカー、回収事業者など計53名

【主な報告や問題提起】

- 環境省の方よりご挨拶として、リサイクルする意義の重要性、子どもたちへのリサイクル教育の大切さ、容器包装リサイクル法の見直しについての情報をお話いただきました。
- 容環協より、紙パックリサイクルの普及啓発、環境に関わる知識の普及、調査研究事業、プラン2015に基づく3つの目標と具体的活動を紹介しました。
- 自治体からは拠点やスーパーでの行政回収、今年度から始めた学校給食用牛乳パックの回収方法や燃やすごみの組成調査結果等が紹介されました。北九州活性化協議会からは、使用済み紙パック再生トイレトペーパー「えこっパー」の開発、製紙会社より1円/パック販売の寄付の活用、事業者からは出前授業や紙パック工作、リサイクル活動事例が報告されました。
- 情報交換会では、多くの自治体や地域組合からご説明をいただき、「えこっパー」の活用、拠点回収や集団回収などの実態や課題などが明らかになりました。

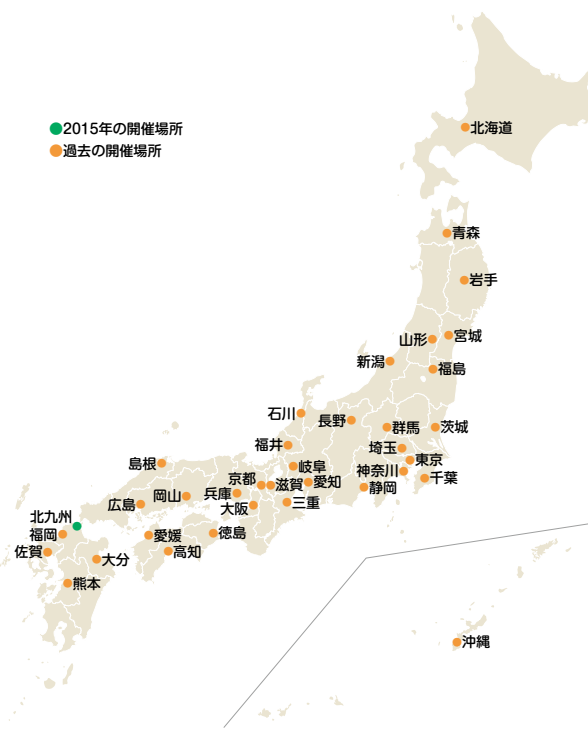


地域会議 in 北九州の様子

- 製紙会社からは「えこっパー」の製造、地域での紙パックをはじめとする古紙リサイクルの受け皿としての啓発活動、古紙問屋からは紙パックの雑がみへの混入やリサイクル啓発について、再生パルプ製造事業者からは紙パックの再商品化などをお話いただきました。
- 全国パック連からは、雑がみとの分別の啓発、市民が分別回収したものが輸出される問題などのご意見をいただきました。
- 調査会社からは九州地区は行政、集団回収とも少ない地域であり、雑がみに混入され輸出されてしまう傾向があるとの報告をいただきました。
- そのほか様々な意見が交わされました。
- ・使用済み紙パックの雑がみへの混入、輸出などにより数量把握が困難になること
- ・輸出については価格や品質など国内外で差があり経済原理がはたらくこと
- ・使用済み紙パック量が少なくベールにならずに雑がみ等に混入すること

北九州という地域特性を知ることができ、今後の活動に資する有意義な地域会議となりました。

地域会議の開催場所



紙パックリサイクルの
現状と課題が
明らかになりました。

【家庭紙メーカーとの意見交換会】7月2日

全国パック連との共同で、静岡県富士市の『ふじさんめっせ』会議室にて、家庭紙メーカーとの意見交換会を開催しました。当日は、家庭紙メーカー、古紙回収事業者30名が出席しました。

最初に容環協から、使用済み紙パックの回収率は上がってきているにもかかわらず、家庭紙メーカーへの入荷量が減ってきているとの情報があり、回収率を向上させるための情報交換とする今会議の主旨について説明しました。

続いて全国パック連より、昨今の紙パック回収の状況の変化、紙容器の識別マーク、紙パックリサイクルの現状と課題等について総括的な説明があり、今回の意見交換会につながっていること、色々なステークホルダーが関連する紙パックのリサイクルの中での容環協の位置付け、リサイクルシステムの重要性などが報告されました。

意見交換では、家庭紙メーカー各社から、入荷状況について一様に減少傾向にあることが報告されました。原因としては、牛乳が主体の紙パック飲料の消費量の減少、海外への紙パック古紙の輸出が示唆されました。



意見交換会の様子

紙パック古紙の輸出については、紙パック単体でもかなりの量が輸出されているという情報や、他の古紙と混在して輸用量が把握できないなどの問題が明らかになりました。また、輸出される理由としては、輸出先での家庭紙の販売価格が国内と比較して高く、原料としての紙パック古紙価格も比例するので経済原理から輸出に回っている、と推測されました。

その他、最近では未晒の紙を使ったアルミ付紙容器が製品化され、それら多様な紙パックと識別マークのあり方、市民のリサイクル意識について、店舗等でのあらゆる機会をとらえての啓発活動の重要性、行政に期待する役割等々、様々な意見が出され有意義な会議となりました。

紙パックリサイクルは、上質な紙原料であっても量が少ないこともあり、関わっている多くのステークホルダーの努力によって成り立っています。今後も関係者が協力して紙パックリサイクルを推進していくことを心に刻み、閉会となりました。



会場の「ふじさんめっせ」

リサイクル促進意見交換会

牛乳パックリサイクル出前授業



関係団体が多数集い、
リサイクルの現状と課題を
話し合う貴重な場に。

【第27回飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会】

2月5日、東京・九段下の乳業会館にて、経産省リサイクル推進課、農水省食品産業環境対策室、自治体関係者、市民団体、NPO団体等計59名の方が出席のもと、飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会を開催しました。

はじめに容環協・中村会長(当時)から開会挨拶として、紙パックリサイクルが始まった経緯、自主行動計画「プラン2015」と意見交換会の意義を述べました。続いて経産省の方より、容リ法が各主体間での連携により一定の評価を得ている現状と、今後より一層リデュース・リサイクルの推進が議論されることを期待したいとご挨拶をいただきました。農水省の方からは、食品容器包装のリサイクルに関して、食の安全や少子高齢化という社会構造の変化への対応も必要なことから、リサイクルの制度をより良くしたいとのご挨拶をいただきました。

取組状況報告として、容環協事務局長から「プラン2015」、飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査結果等について説明し、4つの専門委員会からもそれぞれの活動を報告しました。全国パック連・平井代表からは、量販店の株式会社万代、東大阪市の集団回収などの取組紹介や、自治体での紙パック回収の現状と課題について、全国20事例集を元に説明がありました。

大崎ウエストシティワーズ自治会長からは、回収ボックスを各フロアに設置したことで住民が積極的に紙パック回収に参加したこと、感謝祭で日頃のリサイクル協力に対し紙パックとトイレトペーパーの交換を行ったことなどをお話いただき、雪印メグミルク株式会社からは、紙パック回収率50%以上の達成に向けた社内会議での活動報告、全工場への回収ボックス設置の徹底、企業イベントでの容環協ツールの活用などについて報告されました。

意見交換では再生紙メーカーから、紙パック古紙回収の課題として紙パック古紙の輸出と国内での原料不足に対する危機感、古紙再生事業者団体からは古紙のグローバル化と発生量の減少などの構造的変化を把握する必要があるとの提言がありました。飲食事業者からは、店舗での紙パックリサイクルの現状と課題、全国パック連からは飲食事業者店舗での紙パック回収と福祉事業所「笠松あんじゃ園」の例を挙げ、現場とのつながりの必要性などの説明があるなど、多くの意見・報告・問題提起が行われました。

最後に容環協から、雑誌・雑がみへの紙パックの混入量をなんとか捉えようと紙製容器包装リサイクル推進協議会にも協力いただいている現状と、市民に対して分別回収の啓発を行うことも容環協の活動の大きな柱になっていることを説明し、今後も各主体間の連携を図ることを宣言しました。

子どもたちの学びの場に。
毎年好評の「出前授業」を
全国の小学校で開催。

2015年も全国の小学校で、全国パック連と連携して「牛乳パックリサイクル出前授業」を開催しました。

出前授業講義内容

- ・講義 「資源と森林管理について」
「牛乳パックは良質な資源」
- ・視聴 DVD「牛乳パックン探検隊」
- ・実演 「手すきはがきづくり(牛乳パックパルプ使用)」
- ・質問コーナー 「リサイクル説明パネル」

【埼玉県 越谷市立大袋東小学校】6月20日

6月の環境月間に合わせて学校主催で行われた「エコフェスティバル」で、エコな取組を推進する企業や団体の1つとして、容環協は出前授業で支援しました。

児童に牛乳パックのポリエチレンフィルムをはがしてもらい、はがした後の紙を小さくちぎり、ミキサーにかけ、白色のパルプ繊維を取り出した所を見せ、「牛乳パックは分別して排出する」意味を深く理解してもらいました。(全学年140名受講)

【青森県 青森市立泉川小学校】9月17日

4年ほど前から環境に熱心な先生が「牛乳パック回収ボックス」を設置したのがきっかけで、3～6年生で牛乳パックリサイクル活動を実施しています。給食の配膳前、前日洗って乾かしておいた牛乳パックを、給食当番以外の児童がはさみで切って開いて回収ボックスへ。給食を食べ終わった児童から、水ですすいで窓際に置かれた空き箱に逆さまにして乾かしていました。(4年生91名受講)



すすいだ牛乳パックをかわかしています。

【広島県 福山市立引野小学校】10月1日

日頃から児童全員が自らが飲んだ給食の牛乳パックを、洗って開いて乾かす活動を実施しています。各教室前の廊下に設置された回収トレーには、牛乳パックがあふれんばかりでした。また、講義を通じて海外と日本との容器の回収方法の違いを学び、驚きと自ら参加しているリサイクル活動の大切さを実感していました。(4年生46名受講)



回収トレーにあふれんばかりの牛乳パック



主催者挨拶 容環協 中村会長(当時)



ステークホルダーの方々



ポリエチレンフィルムはがしの様子

紙パックリサイクル講習会



現状を知っていただき、
実際にリサイクルを体験する
楽しい講習会です。

紙パックリサイクルの現状や、紙の原料となる森林の管理状況を説明するとともに、回収ルールの体験を通して牛乳パックの回収に関心を持っていただくため、「牛乳パックリサイクル講習会」を毎年開催しています。

【千葉県 横芝光町】7月23日

横芝光町立図書館で、「夏休み子ども科学講座」“牛乳パックリサイクル教室 オリジナルはがきを作ろう！”を全国パック連と実施し、子ども27名と保護者6名が参加しました。全国パック連・平井代表の講義やDVD「牛乳パックン探検隊」の視聴、牛乳パックの手開きや手すきはがきづくりなどを通じ、紙パックへの理解を深めていました。



熱心に講義を聴いているところです。



手すきはがきづくりに挑戦中！

リサイクル講習会講義内容

- ・講義 「資源と森林管理について」
「牛乳パックは良質な資源」
- ・視聴 DVD「牛乳パックン探検隊」
- ・実演 「手すきはがきづくり(牛乳パックパルプ使用)」
「牛乳パック手開き」
- ・質問コーナー 「リサイクル説明パネル」

【相模原市】7月31日

橋本台リサイクルスクエアでのイベントで行われた講習会。全国パック連・平井代表の講義では、資源が不足していた日本では『使い終わった牛乳パックを捨ててしまうのはもったいない』との思いでリサイクルが始まり、世界でも他に例の無い活動になったとのお話がありました。手すきはがきづくりでは、紙すき用の絵柄のレイアウトに工夫を凝らしていました。



息を止めて、絵柄を静かにのせます。



手すきはがき、きれいにできました。

【静岡県 清水町】8月4日

清水町地域交流センターが企画するイベントの一環で実施したリサイクル講習会には、小学3～6年生33名が参加。清水町の小学校では毎日給食で牛乳パックを手開きしているため、講習会でも慣れた手つきで手開きしていました。空き時間には容環協スタッフによる勉強会が開かれ、紙パックの原料などに触りながら、楽しつつ学びました。



牛乳パックの手開きは早くてきれい！

【西東京市】8月20日

エコプラザ西東京にて、恒例の牛乳パックリサイクル講習会を開催しました。全国パック連・平井代表によるクイズを織り交ぜながらの森林管理などの講義の後、DVD「牛乳パックン探検隊」を視聴し、牛乳パックの手開きを体験。手すきはがきづくりでは絵柄を迷う子もいましたが、できあがった世界で1枚だけのはがきを手に、小学生44名と保護者20名全員での記念撮影となりました。



世界で一枚だけのハガキが出来ました。

【厚木市】8月26日

多目的交流施設「あつぎ市民交流プラザ アトリエ」で親子を対象に行われた講習会では、参加にあたり持参いただいた使用済み牛乳パックとトイレトペーパーを交換。リサイクル展示品などを使った紙パックリサイクルのおさらいでは多くの質問があがるなど、皆さん楽しそうな表情で参加され、思い思いに作った手すきはがきと、夏休み最後の思い出になりました。



世界で1枚の手すきはがきです。

【東京都 品川区】11月15日

紙パック回収取組2年目を迎えた大崎ウエストシティタワーズ管理組合・自治会が企画する「リサイクル回収感謝祭」に、牛乳パックリサイクル普及啓発で支援しました。お持ちいただいた牛乳パックとリサイクルトイレトペーパーの交換会やクイズ・アンケート、リサイクル講習会と手すきはがきづくりを交えて、お忙しい中お集まりいただいた居住者の方々と触れ合うことができました。



パネルでリサイクルのお勉強

エコライフ・フェア／エコプロダクツ2015

牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール



リサイクルの大切さを啓発。
紙パックの手開きや紙すきを
体験しました。

【エコライフ・フェア2015】6月6日、7日

環境省が中心となり、毎年6月の環境月間に東京・渋谷の代々木公園で開催されているエコライフ・フェア。今回で26回目となる本イベントに容環協は2007年から参加しており、今回で9回目の出展です。2日間とも天候に恵まれ、来場者の出足も順調で、延べ524名のお客様をお迎えしました。

ブースではクイズ・アンケート、使用済み紙パックを利用した小物づくり、手すきはがきづくりなどを実施。ワークショップのテントでは、DVD「牛乳パックン探検隊」の視聴、紙パックリサイクルのクイズ、実際に飲み終えた容器の手開き体験などのイベントで楽しんでいただきました。参加された多くの方には紙パックリサイクルに興味を持っていたいただけたと実感しています。



小物づくりも大賑わい



紙パッククイズに挑戦

連日盛況の容環協ブース。
国内最大級の環境展に
出展しました。

【エコプロダクツ2015】12月10日～12日

1999年から開催されている日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ展」は2015年で17回目の開催となり、容環協は今回も牛乳パック再利用マーク普及促進協議会と共同で出展しました。

展示会全体の来場者数は169,118名、そのうち1,939名が容環協ブースに足を運び実際にイベントに参加していただきました。ブースでは紙パックのリサイクルルールや仕組みを学ぶ「卓上型環境展示」や「もったいないものがたり」などの各種資料の配布に加え、「牛乳パック手開き体験」のワークショップ、また恒例となった全国パック連の協力による「手すきはがきづくり体験」を行い、様々な展示や活動を通じて、紙パックのリサイクルへの理解と協力を広く訴える機会となりました。



卓上型環境展示での説明



ワークショップ風景

高田 悠里さんの作品
『ミルクフェニックス』が
みごと最優秀賞に。

15回目を迎えた「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール2015」には全国の小学校より2,828作品の応募がありました。いずれも秀作ぞろいの中、厳正な審査の結果、受賞作品7点が選ばれました。おめでとうございます。

《受賞作品》

- ◆最優秀賞 『ミルクフェニックス』
高田 悠里さん（習志野市立実習小学校5年）
- ◆優秀賞 『ぼくの夢をのせて』
秦 幸生さん（和歌山市立三田小学校5年）
- ◆優秀賞 『カメレオン』
東原 寛人さん（吹田市立古江台小学校3年）
- ◆全国小中学校環境教育研究会賞
『麦わらぼうし』
上田 紗葵さん（横浜市立三ツ境小学校4年）
- ◆日本乳業協会賞
『牛乳パックがへんしんしたよ』
日野 杏美さん（高山市立江名子小学校2年）
- ◆全国牛乳パックの再利用を考える連絡会賞
『弟のカッコイランドセル』
田尻 絢楓さん（加古川市立加古川小学校2年）
- ◆全国牛乳容器環境協議会賞 『こだいりゅう』
相原 弘治さん（横浜市立能見台小学校4年）

《特別賞》

- 対象校、先生
- ・福岡県宗像市立赤間小学校
 - ・千葉県佐倉市立西志津小学校
 - ・岐阜県郡上市立高鷲小学校
 - ・奈良県宇陀市立榛原小学校
 - ・羽豆純子教諭（埼玉県さいたま市立大砂土東小学校）
- 以上

最優秀賞は千葉県の小学校5年高田悠里さんの作品「ミルクフェニックス」でした。いろいろなものに姿を変えて蘇える牛乳紙パックをフェニックスに見立てた発想力、そして発想を形にする追求心と知識、構成力は、多くの応募作品の中でも際立った作品として評価されました。

受賞作の表彰式は「エコプロダクツ2015」の容環協ブースにて12月12日に行われ、審査委員長の東京国立博物館・銭谷館長、実行委員長の容環協・岸田会長をはじめ審査委員の方々から、受賞者にそれぞれ賞状・楯・副賞が贈られました。また今年で15周年を迎えたことから、これまでに多くの応募をよせていただき児童の作品応募の労をとってくださった小学校と先生に感謝の意を表して特別賞を贈りました。

受賞作品は容環協の小学校向けホームページ「牛乳パックン探検隊」で紹介されています。



最優秀賞作品『ミルクフェニックス』
高田 悠里さん



最優秀賞受賞の高田 悠里さん



「エコプロダクツ2015」容環協ブースで行われた表彰式

紙パック組成分析調査／その他の活動



分別排出の現状を知るため、
資源の組成調査を
実施しました。

【町田市での紙パック組成分析調査】

紙パック回収を行っている市町村では分別排出ルールを市民向けパンフレットやホームページで公開しています。しかし紙パックをせっかく分別しても、雑誌や雑がみに混合排出してしまい、有効に回収されない実態があることがわかっています。

そこで、分別ルールをきちんと公開し、紙パックを回収しているが、人口の割に回収量が多い市町村を、環境省調査結果(平成25年度)を参考に検討し、町田市にご協力いただき、紙パック分別排出の実態を調査しました。

真夏の日差しが降り注ぐ中、町田リサイクル文化センターの一角を作業スペースにお借りし、回収車1台分の古紙類を対象に調査を進めました。

ダンボール、雑誌、雑がみ、紙パックと一見きちんと分別できているように見えたが、やがて、紙パックが雑がみ袋から見つかりはじめ、正しい分別を理解していただくことの重要性を改めて感じました。

紙パックの排出実態を知る貴重な調査となりました。



組成調査の様子

全国パック連と協働で
商業施設との連携にも
取り組みました。

【商業施設「ニトリモール相模原」との連携】

3月7日、「相模原市ごみDE71大作戦」の一環として、ワークショップ「牛乳パックでグリーティングカードを作ろう」を商業施設ニトリモール相模原で開催。クイズも含めて約300名に参加いただき、紙パックが優れた資源であることを実感していただきました。



大にぎわいの紙すきコーナー

【商業施設「ララガーデン長町」との連携】

9月5日・6日、仙台市の地域密着型商業施設「ララガーデン長町」での環境イベントにて、紙パックリサイクル促進キャンペーンを共催しました。

紙パック6枚と紙パックリサイクルボックスティッシュの交換や、手すき体験やクイズの開催、またパネルや紙パックリサイクル品のサンプルを用いてリサイクルの流れを紹介するなど、盛りだくさんの内容でした。



紙パックリサイクルの流れを学習しました。

店頭用POPを作成し、
ご活用いただきました。

【店頭用POP作成と活用】

紙パックリサイクルの店頭啓発用POPカードを作成し、大手スーパーマーケットチェーン・ユニー株式会社およびマックスバリュ中部株式会社の協力を得て、店舗の商品棚に掲示しました。「紙パックマーク」がついていれば500mlや200mlなどの小型容器でもリサイクルできることや、集めた紙パックがトイレトペーパーなどにリサイクルされることを、牛乳パックのイラストを用いて親しみやすく伝えられるように表現しました。

その後も、店頭で目立ちやすくわかりやすいデザインに改良した第2版を作成し、ユニー株式会社の協力を得て、店舗の商品棚に掲示して啓発活動を行っています。



作成した店頭用POP



第2版

1/2サイズ回収ボックスをご活用
いただきました。また布製の
クイズパネルを製作しました。

【1/2サイズ「紙パック回収ボックス」による活動推進】

狭い場所でも設置が可能な1/2サイズ紙パック回収ボックスの活用を進めています。多摩市の呼びかけで複数のコンビニエンスストア店舗で設置をしていただき、紙パックの回収促進に一役買っています。

お申込みは容環協・事務局までお願いします。
(幅22cm × 奥行47cm
×高さ86cm)



設置された「紙パック回収ボックス」

【クイズパネルの更新】

従来、リサイクルイベントなどではハードパネルで紙パックリサイクルのクイズを出題していましたが、新たに壁などに掛けやすい布製のパネルを製作しました。ハードパネルに比べ、かさばらず、軽持ち運びに便利になりました。

地域のリサイクルイベントなどで、ぜひご活用下さい。貸し出しのお申し込みは容環協・事務局までお願いします。(幅60cm×高さ90cm)



パネルのキット一式

組み立てて完成